

令和3年度 沖縄県循環器病対策推進協議会 主なご意見（抜粋）

- 1 日 時：令和3年10月29日（金）18：00～20：00
- 2 場 所：沖縄県医師会会議室（WEB会議併用）
- 3 出席者：別紙「構成員一覧」のとおり
- 4 主なご意見及び回答（抜粋）

（1）議事1 循環器病対策推進計画ロジックモデル案について

① 心疾患分野について

ア 移行期医療支援について

○患者代表 宮里様

- ・移行医療支援についてをアウトカムで記載していただき感謝している。
- ・離島県である沖縄では特に大切な取組みなので、しっかり対応して欲しい。

○看護協会 平良会長

- ・先天性心疾患患者の数を把握していたら教えていただきたい。
- ・移行期医療支援の看護師の人材の育成は難しい。そこをどう考えているのか。
- ・育成医療の申請窓口は市町村なので、専門人材の育成は、市町村の保健師も対象にした方がいい。

○沖縄県 諸見里統括監

- ・患者数については、手元にないので確認したい。
- ・医療機関との連携はスピード感を持って取り組んでいきたい。
- ・まずは、早めに移行期医療支援センターを設置するために、関係機関とも役割を整理していきたい。

○琉大病院 大屋先生

- ・移行期医療センターの設置には費用がかかる。行政としてどこまで検討しているのか。
- ・移行医療が必要なのは先天性心疾患だけではない、どこまで対応する考えなのか。
- ・人材育成についても、移行期医療支援センターの定義をはっきりさせないと検討できない。
- ・そもそも計画期間内で達成できる内容なのか。

○沖縄県 諸見里統括監

- ・移行期医療支援センターの設置については県の施策として行っていく。経費についても国の補助等も確認し、関係課と予算化に向けて至急の調整を行っている。
- ・対象疾病や規模は最初は出来る範囲で対応し、他県の状況も調査しながら対応していきたい。

○沖縄県 高嶺班長

- ・計画期間については、第一期計画期間内での達成を目指すものだけではなく、

次の第二期計画に向けても継続して対応していく取組もある。

- 医療ソーシャルワーカー協会 新垣会長
 - ・障がい者手帳のように、小児期から成人期へ切れ目なく医療提供を行えている事が捕捉できる数字はあるか。
- 沖縄県 高嶺班長
 - ・今時点では把握していないが、今後関係課と相談したい。

イ 心不全の緩和ケアについて

- 琉大病院 大屋先生
 - ・緩和ケアチームの定義はなにか。緩和ケアは診療報酬上制約（末期心不全が対象）があるので、DPCデータのみだと対象者が限られる。そこでは拾えないデータの収集も検討した方がよい。
- 沖縄県 高嶺班長
 - ・緩和ケアチームの設置についてはDPC病院に独自に聞き取りを行い確認したものの。

ウ 大動脈緊急症への対応について

- 琉大病院 大屋先生
 - ・大動脈拠点病院となると様々な要件設定などあり、指定するとなると色々な意見が出ると思う。計画の表現は指定をいう言葉を使わない方がよい。
 - ・がんの拠点病院の認定の仕方も参考にしては。
- 沖縄県 高嶺班長
 - ・まずは関係者の協議から始め、その中で拠点病院の整備が必要ということになれば、そこに向けて取組を進めていきたい。

② 脳卒中対策分野について

ア 脳卒中患者への相談支援について

- 患者代表 大城貴代子様
 - ・脳卒中センターはどういう役割で、県内でどこがあるのか。
- 沖縄県 高嶺班長
 - ・役割は学会で定義されており、現時点では南部医療センターがその役割を担っている。
- 琉大病院 大屋先生
 - ・患者支援を急性期病院が行わないといけないのかは検討が必要。
- 看護協会 平良会長
 - ・南部医療センターのようなところで相談支援を行うのは難しいのでは
 - ・看護師で言えば、脳卒中認定看護師という方がいるので上手く活用できるのでは
- 沖縄県 諸見里統括監
 - ・相談支援について脳卒中センターの役割も整理し、福祉分野とも連携して取

り組んでいきたい。

- 琉大病院 大屋先生
 - ・患者の職場復帰に向けた支援の取組も盛り込んで欲しい。
- 沖縄県 高嶺班長
 - ・計画本文には盛り込みたい

イ 予防について

- 医師会 宮里先生
 - ・沖縄県の脳卒中の特徴は男性は若い人、女性は高齢での発症が多い。若くして発症すると悲惨な状況になる。一番大切なのは予防だと考えている。特定健診への繋げ方など考えていく必要がある。
- 琉大病院 大屋先生
 - ・学校教育の場での予防についての教育も文言で盛り込んで欲しい。
- 沖縄県 高嶺班長
 - ・計画本文には盛り込みたい

(2) 議事2 骨子案について

- 医師会 宮里善次先生
 - ・沖縄県は救急医療は強く、医療体制は出来ている。一方再発予防と予防対策は足りない。そこをなんとかできないか。
- 沖縄県 高嶺班長
 - ・予防の取組については、国循との協働事業での取組を行っていききたい
- 琉大病院 大屋先生
 - ・今後介護との連携も期待している。予防と患者復帰のところを是非取り組んで欲しい。
- 沖縄県 諸見里統括監
 - ・沖縄県も計画に位置づけた取組は事業化を行うなどしっかり取り組んでいきたい。
- 医師会 宮里善次先生
 - ・介護関係者との役割について、市町村との連携も行って欲しい
- 沖縄県 大城部長
 - ・県としても市町村の計画を踏まえ連携していききたい。